

むかしあるところに、バガみてだ婿であつたどしよ。

トメ子という嫁つこもらつて、正月になつたけ嫁さんの家さ婿礼に行つたのだしよな。したつけ婿礼に行つたば初婿来たつてその家の親方、飲ませで食わせで、歌つたり騒いだりしたど。

その家で甘酒出したわけだ。その甘酒うめくつて、もつと飲みてえな、もつと飲みてえなと思つたども、初婿だはんで、ひょうしくて遠慮していであつたどしよ。

さて、夜、寝だごどになつたのやな。したども、とつても飲みたくて、飲みたくてがまんなねくて、目さまして起きで、トメ子さ、

「トメ子、おれ、とつても甘酒飲みたくて、ねぶらえねや」
つて言つたどや。

「ハア、ほだてが、へばあすこの部屋つこのかめつこさ入つてあるで。まだ残つてあるで」

「ほだが、飲んででもえつてが」

「アエ、行けばわがるはんで、飲んででもえ」

そこで婿、その部屋つこさ行つたけ、かめつこさ入つた甘粕あつて、飲んだつて、うめぐつてうめぐつてハア、飲んだ、飲んだ、みな飲んでしまつたでも。こつたなんでもなねくて、かめまじか、ズツと傾げで飲んだだけ、かめがばつと頭さかぶさつて、なんぼ取る気なつたて、抜ぐもならねくて、なんともなねくて、こつた便所さ行つて隠えであつたど。

したば親方、朝方になつたば、

「アーさむさむさむ」

つてうんこまげに行つて、うんこまげで、

「なんだ、尻ぬぐうものなんてもねえ」

石ふるつて、石で尻ぬぐつて、ブーンとぶつつけだば、かめさガチツとあだつて、かめぼこえだもの。かめぼこえだおかげで、そのむこベロツと顔出したのや。

「おや、なんだ、兄でねが」

「親方、なんと」

こつた一人ながら、ひとり

「なんとしたわけだば」

「甘粕飲みたくて飲みたくて、部屋つこさ行つて甘粕飲んで、みなかめまじか、かぶつたけ、こつたとれなくつて、恥ずかしくて、こさ隠えでいだどこだ」婿さんが言うたば、

「なんとおれも今せ、尻ぬぐうと思つたけ、なんてもなくて、今、石でぬぐうた。どつちも恥ずかしはんで、どつちもしゃべねこつた」まじ、しゃべねごどにしてきたでな。

したつて、次の日まで集まつて、酒つこ飲んだつて、親方、歌つて出したじもの。

「へつるかめー」

と云うたば、

「親方、したつて石で尻ぬぐつたねが」

その婿、言つたど。そいでどうとう、どつちも化けの皮はがえであつたどや。そういうばがむごであつたどや。